

各支部長・専門部長 様

千葉県教職員組合 中央執行委員長 渡邊 郁哉

「知事と教職員との意見交換会」を実施！

12月22日、子どもたちと直接向き合っている現場の教職員と熊谷知事との意見交換会が実現しました。

知事との対話では、感染症明けの今の子どもたち、教職員の様子や学校現場の実情や課題について共有し、さらに課題解決にむけて方策を知事から問われる場面もあり、大変充実した会となりました。

<参加者>

大坂 尚弘 (印旛支部)
山口 幸子 (市原市支部)
高橋みどり (東総支部)
栄木 隼人 (香取支部)
渡邊 郁哉 (中央執行委員長)
鶴島 規晃 (中央執行副委員長)
古川 陽平 (書記長)
中村 和嗣 (書記次長)



【教職員の代表挨拶：渡邊委員長】

参加者からは、主に以下の内容について、それぞれの勤務校での子どもの様子、教職員ががんばっていること、課題等について伝えました。

- ・部活動の地域移行が地域の担い手を探するのが困難で、本当に移行が進むのか先が見えない。
- ・ベテラン層の教育力や指導力は価値があり、若手の指導を担っていくためには必要である。
- ・様々な行事がコロナ禍前に戻ってきた。体験から学ぶことの意義は大きい。
- ・コロナ禍を経て、現場でのスクラップ&ビルドが進んできた。今は各学校で何をビルドしていくのか、その教育効果を見極めながら試行錯誤をしている。
- ・幼小連携で4年ぶりに対面での園児を招いての『お祭り』を開催できた。タブレット端末を駆使して、発表したり、おもちゃをプレゼントしたり、園児も在校生も終始笑顔で過ごしていた。

知事からは「今と数十年前で学校現場はどう変化してきたか。」「デジタル教科書についてどう考えるか。」など、様々な質問が出ました。私たち教職員の実情を理解し、どう実現させていけばよいかということを実感することができました。教育現場の現状や課題について行政と共有することは、改善のスタートとして、大切なことです。私たちのがんばりもアピールし、子どものために必要なことを一緒に考える場を、今後も設定していきます。



【知事と一人ひとり対話していく参加者】



【真剣に耳を傾ける熊谷知事】